

# オンライン・バックアップ操作方法

## データファイルのオンライン・バックアップ方法

### 1. バックアップ・モードへの変更

※ Oracle インスタンス (SID) を構成する表領域すべてを、同時にモード変更する

ALTER TABLESPACE 表領域名 BEGIN BACKUP ;

### 2. 物理ファイルのバックアップ操作

OS コマンドにて、表領域に対する物理ファイルのコピーを採取する

### 3. バックアップ・モードの終了

ALTER TABLESPACE 表領域名 END BACKUP ;

※ ~~複数の表領域が存在する場合、表領域 1 個ごとに 1～3 の操作を行い、バックアップ・モードになっている間の時間を短くする。システム表領域についても同様~~

複数の表領域が存在する場合、全表をまとめてバックアップ・モードにした方がよい

アーカイブ Redo ログ、オンライン Redo ログが使えない場合には、取得したバックアップ・ファイルの内部に保存されている SCN の値が同一でないと、Oracle でオープンできない

このため、バックアップ・ファイルの SCN 値を同一にするため、一括でのバックアップ・モードへの変更の方が適している

### 4. コントロール (制御) ファイルのバックアップ

ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE TO  
'ドライブ:¥ディレクトリパス¥ファイル名' ;

## 5. アーカイブ・ログ・ファイルのバックアップ

- ・接続

CONNECT SYS/パスワード AS SYSDBA ;

- ・現在使用中の Redo ログファイルを強制的に次のログファイルへ切り替えさせて、  
アーカイブ・Redo ログファイルを作成する

ALTER SYSTEM archive log CURRENT ;

- ・アーカイブ・ログのリスト確認

SELECT \* FROM V\$ARCHIVED\_LOG ;

- ・アーカイブ・ログのログスイッチの停止

ARCHIVE LOG STOP ;

※ ARCHIVE LOG は、LOG までが一連のコマンドなので、ARCHIVE と LOG  
の間のブランクは、半角 1 個しか認められない  
2 個以上のブランクを空けた場合、「SP2-0718: ARCHIVE LOG オプションが  
正しくありません。」とエラーになってしまう

- ・アーカイブ・ログのバックアップ

COPY コピー元のファイル名 コピー先のディレクトリ名

例 )

COPY アーカイブ・ログ出力フォルダ/\* コピー先のディレクトリ名

- ・バックアップ済のアーカイブ・ログ・ファイルの削除

DEL ファイル名

※ フラッシュ・リカバリ・エリアからのファイル削除の場合には、Oracle が管  
理する仮想的なファイル登録情報も同時に削除すること

- ・アーカイブ・ログのログスイッチの再開

ARCHIVE LOG START ;

## 6. 初期化パラメータ・ファイルのバックアップ (SPFILE)

COPY %ORACLE\_BASE%¥DATABASE¥SPFILE<SID 名>.ora

コピー先のディレクトリ名 /Y